

はじめに

群馬県は、海拔12m余の低地から2,500mを超える高山まで、変化に富んだ地形を有し、尾瀬をはじめとした湿原や湖沼、利根川に代表される多くの清流に恵まれ、県土の約3分の2を森林が占めています。また、気候については県北部は日本海型気候、県南部は太平洋型気候と地域によって大きく異なります。このような多様な自然環境を反映して、群馬県には多種多様な動植物が育まれてきました。

しかし、高度経済成長にともなう人間の様々な活動や暮らしの変化は、自然環境に大きな影響を与えており、本県においても開発や乱獲による種の減少・絶滅、里地里山などの手入れ不足による自然の質の変化、これに加え近年では、外来生物の侵入やシカの食害などによる生態系の攪乱といった問題が発生しています。

こうした状況は全国規模で見られ、世界規模で生物多様性の重要性の認識が高まり、我が国でも2010年に生物多様性の保全及び持続的な利用に関する国の基本的な計画である「生物多様性国家戦略2010」の閣議決定が行われ、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されました。また、2012年には新たに「生物多様性国家戦略2012-2020」が閣議決定され、人類と自然とが共生する世界の実現を目指そうと提案した「愛知目標」の達成に向けたロードマップが新たに示されました。

我々にはこれまで受け継がれてきた素晴らしい自然を良好な状態で残し、後の世代にしっかり伝えていくという重要な責務が課せられています。

本県では、自然環境の適正な保全を図ることを目的に、1974年度から県内の様々な地域において「良好な自然環境を有する地域学術調査」を、地形・地質、植物、動物の学識経験者で構成される「群馬県自然環境調査研究会」に委託して実施してきました。

本書は、2011年度に実施した調査の結果について取りまとめたもので、調査・執筆にあられた方々の熱心な活動の成果です。この調査結果が自然環境に対する施策や研究に広く活用され、本県の自然環境保全の一助となれば幸いです。

最後に、調査・執筆にあられた皆様に深く感謝申し上げるとともに、御協力いただきました方々に厚く御礼を申し上げます。

2013年3月

群馬県環境森林部自然環境課長

目 次

1	日光白根山・錫ヶ岳周辺（第1年）	1
2	桐生・伊勢崎・前橋周辺の流れ山	77
3	木馬瀬周辺	95
4	榛名山東麓（第2年）	107
5	西榛名地域生物多様性モニタリング調査 I	121